

# 窓辺

あんどろ  
安藤 隆敏

## 人間の可能性 —卒業式校長式辞から

浜松市立萩丘小で校長を務めていた際、校長室で一本のトマトを育てていました。

出来上がった実は全部で8個。農家の人が作れば、30個ほど。さらに、世界記録はなんと1万個以上。普通

に育てていると、トマトの遺伝子はほとんどが眠ったままの状態にあるそうです。もともとは、たくさんの実をつける能力を持っているのですが、それを発揮できていないということなのです。

同じ遺伝子暗号を使って

いる人間に当てはめたらどうでしょうか。1人の人間の細胞は、約60兆個。その一つ一つには膨大な遺伝子情報が入っています。本にすると千分の本で約千冊分になります。

しかし、実際に働いているのは、その1割にも満たないそうです。ほとんどがオフの状態。「夢」に向かって自分の能力を高めるために眠っている遺伝子をオンにしたいものです。そのため、三つの方法を紹介します。

60兆個の細胞それぞれ

が、チームとしてのつながりを持って初めて「生きている」ということ。このことがどんなに素晴らしいことなのかと、「感謝する」

ことが一つ目です。普段は重い荷物を持つことが苦手な人でも、緊急事態の時には、倍以上の力が出ます。

つまり、「本気になる」ことが二つ目です。三つ目はマイナス思考ではなく、「生き生きわくわくしながら取り組む」ことです。

誰もが同じ遺伝子を持っています。オンにできたものの違いによって個性や能力が異なっていくのです。

と、最後の卒業生にエールを送りました。同時に、自分にも。

(浜松科学館館長)